

# 令和7年度 自己評価及び学校関係者評価書

24003

令和8年3月24日(火)

札幌市立上白石小学校

- 1 本年度の重点目標 **Team「上白」・明るく創造的な取組**
- 2 本年度の経営方針 **みんなで響き合い 高め合う学校の創造**
- 3 自己評価結果に対する学校関係者評価

分野	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		達成状況	改善の方策	自己評価の適切さ	改善策の適切さ
学ぶ力の育成	基礎的な力が身に付いてきている	B	<p>「漢字や計算などの基礎的な力が身に付いてきている」とアンケートに答えた保護者が89%、児童が86%と、昨年度を上回った。また、落ち着いて学習に取り組んでいる」と回答した保護者が85%、児童が88%だった。学習習慣を定着させるため、全職員で学習規律を意識した指導を継続したり、家庭での学習(宿題)に取り組ませたりした成果と考える。</p> <p>次年度は、更に学習習慣の定着を図り、基礎的な力を身に付けることができるよう指導していく。</p>	A	A
	学び合いを通して高めあおうとしている	A	<p>札幌市で推進している「課題探究的な学習」に関わる研修会を行い、子どもたちの主体的な学習活動を推進してきた。また、授業において、子どもたちが自分自身の思いや考えを伝え合う場を設定し、対話を通して学び合う学習を行ってきた。</p> <p>教育に関するアンケートの「学習内容を理解している」という項目では、保護者が91%(昨年度83%)、児童が88%(昨年度89%)となった。</p> <p>次年度も、子どもが主体的に学ぶ学習を進め、対話を通して学びを深められるよう推進していく。</p>	A	A
学校関係者評価委員による意見		<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者、児童ともに基礎学力の定着を実感しているので、今後も指導の継続をお願いしたい。</li> <li>・全体的な結果として80%台ではあるが、100%にならないとしても、毎年伸び率があることを努力の賜物としてよいと思う。</li> </ul>			

豊かな心の育成	認め合う気持ちをもって周りに関わっている	A	<p>異学年交流「にじいろ遊び」、「廊下歩行週間」、「ルールマナー週間」等を通して、相手意識を高め、互いを認め合う風土を醸成してきた。また、低・中・高学年に分かれて実施するブロック遠足では、発達段階に合わせた活動や目標を設定し、子どもたち同士が主体的に関わりながら相手意識を高める取組を推進してきた。</p> <p>また、レバンガ北海道の選手を招いてのキャリア教育や、北海道警察音楽隊・カラーガード隊による音楽鑑賞、PMFオーケストラとの「リンクアップコンサート」への参加、リオデジャネイロパラリンピックに出場した二條実穂さんによる講演等といった芸術・文化にふれる体験を通して、感動する心やよさを認め合う心などを醸成してきた。</p> <p>次年度も本物にふれる価値ある経験を大切に、互いのよさを実感しながら学校生活を送ることができるよう指導していく。</p>	A	A
	進んで挨拶をしている	A	<p>「おあしす運動」 <b>お</b>はようございます（挨拶）、<b>あ</b>りがとうございます（感謝）、<b>し</b>つれいします（礼儀）、<b>す</b>みません（素直な心）の通年での指導や、あいさつ週間等を通して、子どもたちが進んで挨拶する意識を高めてきた。また、出前授業の講師や来校される地域の方とのコミュニケーションの一環として挨拶を指導してきた。</p> <p>次年度も本校児童のよさの一つとして、あいさつ運動等の取組を推進するとともに、「どんな時でも」「誰に対しても」心地よい挨拶を交わすことができるよう、全職員で指導していく。</p>	A	A
学校関係者評価委員による意見		<ul style="list-style-type: none"> <li>・他校に誇ることができる伝統となっており素晴らしい。</li> <li>・子どもたちは、進んで挨拶をしてくれるので嬉しい。</li> <li>・来校時の児童の挨拶がとても気持ちよい。人間関係の基本として、明るくお互いが認め合える関係を継続していただきたい。</li> </ul>			

健やかな身体の育成	進んで遊んだり、運動したりしている。	B	<p>「積極的に運動する姿勢が育っている」とアンケートに答えた保護者は82%、児童は78%と、昨年度と比較して児童が2ポイント上がった。今年度、「ドッジボールコート」を常設し、学年や学級の枠を超えて楽しく運動する場を設定したり、月に1～2回「ジャンピングロープデイ」という縄跳びに取り組む日を設定し、様々な技に挑戦する機会を設けたりしてきた成果と考える。</p> <p>また、冬期間の運動機会を確保するため、スキー学習終了後のスキー山を活用してそり滑りをしたり、雪像づくりを通してグラウンドで体を動かす機会を設定したりした。</p> <p>次年度も年間を通して運動する機会を確保できるようにしていく。</p>	A	A
	体力向上に向けた教育環境の整備によって、運動に親しんでいる。	A	<p>今年度は、運動機会の拡充に向けて、「ドッジボールコート」を常設するとともに、「サッカーゾーン」、「ボール遊びゾーン」、「鬼ごっこゾーン」、「キャッチボールゾーン」、「フラフープ、竹馬、縄跳ゾーン」など、様々な運動に取り組むことができる環境整備を行った。また、体力測定の時期に合わせて、「50m走コーナー」、「ソフトボール投げコーナー」を設定し、測定に向けて児童が目標を設定して取り組むことができるようにした。</p> <p>次年度も子どもたちが気軽に楽しく運動に親しむことができる環境づくりにより体力増進を進めていく。</p>	A	A
学校関係者評価委員による意見		<ul style="list-style-type: none"> <li>・先生方は日々学習の準備に忙しくされているが、積極的に児童とふれ合っている様子が素晴らしい。工夫して環境を整え、安全に体力向上を目指す取組は素晴らしい。</li> <li>・今後も体力をつけてもらいたい。</li> <li>・冬期間の運動の機会をもう少し増やしていただきたい。</li> <li>・発展途上の課題であり、少しずつでも定着⇒発展⇒目標へ向けて努力していただきたい。</li> </ul>			

働きがいのある職場づくり 保護者・地域との連携	学校を開き、家庭や地域の方々と連携し、子どもを育てている。	A	<p>「防災訓練や災害に対する備えが十分に行われている」とアンケートに答えた保護者は97%、児童は94%と、昨年度に比べ保護者が6ポイント、児童が1ポイント上がった。また、「安全・安心にかかわる情報が十分に伝わっている」とアンケートで答えた保護者は97%と、昨年度より8ポイント上がった。年間5回の地域との合同開催を含めた避難訓練や不審者情報等を「安全・安心情報」として発信したり、ホームページや学級懇談会、教育説明会等で教育活動の公開をしたりしてきた成果と考える。</p> <p>次年度も開かれた学校を目指し、家庭や地域の皆様との連携を大切にしていく。</p>	A	A
	教職員のよさを生かし、支え合う関係づくりを大切にしている。	A	<p>算数科における少人数指導や外国語専科による指導、また、教職員の専門性を生かした交流授業の実施など、教職員のよさを生かした校内体制を組織することができた。また、生徒指導においても複数の教員で関わり、多角的に指導の方向性を検討することができた。そして、指導を継続し、児童の変容を共有し、その後の指導につなげるといったサイクルを大切にしながら進めることができた。</p> <p>次年度も全職員が互いに尊重し合い、よさを認め合いながら支え合って学校運営をしていく。</p>	A	A
学校関係者評価委員による意見		<ul style="list-style-type: none"> <li>・この項目はコミュニティ・スクールの取組と繋がるため、素晴らしい状況だと判断できる。</li> <li>・防災訓練に地域の方々と子どもたちと一緒に関わるのがよい。</li> <li>・学校の基礎教育のおかげで児童が積極的に取り組み、保護者にもよい影響を与えていると思う。</li> <li>・地域との連携は素晴らしい環境だと思う。今後は保護者の参加も増えていけば更によくなると思うので、呼び掛け等をしていただきたい。</li> </ul>			

学校独自に設定する分野	<p>「いじめは、絶対に許さない」という考えのもと、児童同士、児童と教員等における温かな人間関係の構築を図る。</p>	A	<p>児童に対して道徳の授業や休み時間等、様々な場面で他者との関わり方について指導を継続してきた。また、「いじめ防止学校基本方針」を全職員で確認し、学校、学級内にいじめを「しない、させない、許さない」という考え方を共有してきた。</p> <p>そして、児童の声に耳を傾け、教師と児童の適切な距離感を意識しながら温かな人間関係をつくってきた。</p> <p>次年度も、子ども一人一人に寄り添った丁寧な関わりを大切にしながら温かな人間関係の構築を図っていく。</p>	A	A
	<p>毎月開催する「いじめ防止対策委員会」を窓口として、迅速かつ組織的な対応をしていく。</p>	A	<p>毎月「いじめ防止対策委員会」を開催し、学級担任とともに学級の状況を確認し、対応について検討してきた。必要に応じていじめアセスメントシートを作成し、状況について経過観察と指導を行ってきた。全学級担任が状況を説明する場を設定してきたことで、いじめ防止に対して高い意識をもって取り組むことができた。また、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーにも委員会に参加していただき、専門的な立場から対応について助言していただくことができた。</p> <p>次年度も、いじめ防止対策委員会を中心に、全職員で情報共有し、迅速な対応をしていきたい。</p>	A	A
学校関係者評価委員による意見		<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校全体の雰囲気がよいと感じている。今後も指導や取組を継続していただきたい。</li> <li>・いじめ認知に対する意識の高さが素晴らしいと感じる。全職員が一体となり、児童の未来を明るくすることで育まれていくことが頼もしく感じる。</li> <li>・今後もいじめ防止に対して真摯に取り組んでいただきたい。</li> </ul>			